

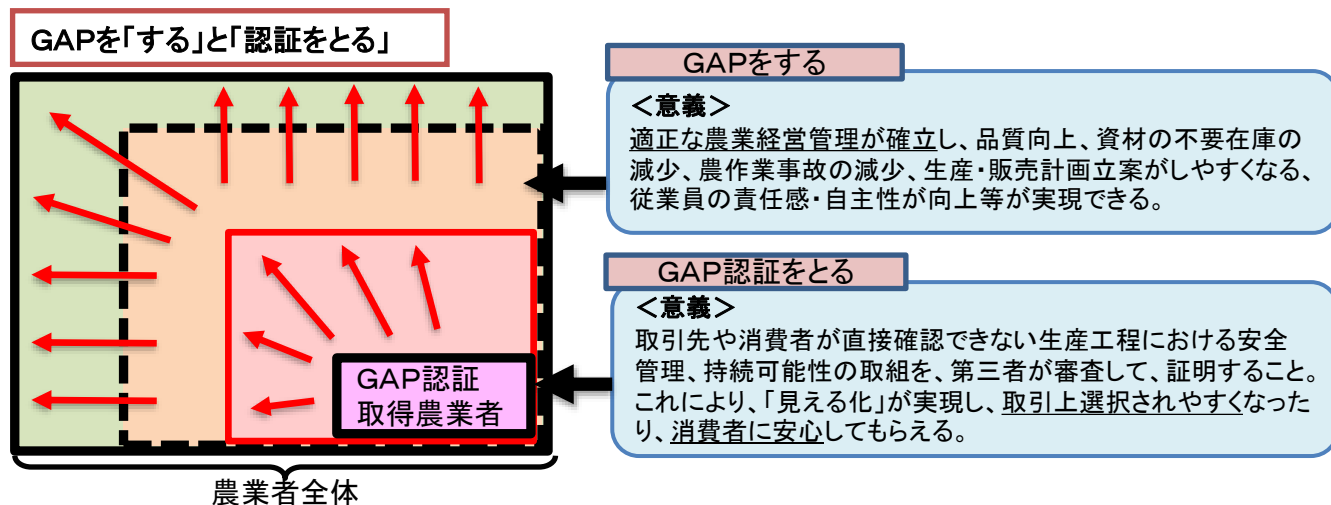
畜産における生産工程管理（GAP） をめぐる情勢

令和5年8月
農林水産省
畜産局畜産振興課

GAPとは何か

「GAP」とは	Good Agricultural Practices の略称。 農業において、食品安全、環境保全、労働安全等の 持続可能性を確保 するための 生産工程管理の取組 。
「GAPをする」とは	農業者がGAP(活動又は取組)を 自ら実施 すること。 認証を取得しているかどうかは関係ない。
「GAP認証」とは	第三者機関の 審査 により、GAPが正しく実施されていることが 確認された証明 。 JGAP家畜・畜産物：一般財団法人日本GAP協会が策定し、平成29年4月より運用を開始。 GLOBALG.A.P.：ドイツのFoodPLUS GmbHが策定。全認証農場数のうち、畜産関係は1%程度。
「GAP認証をとる」とは	GAP 認証を受けること 。 これにより、GAPを実施していることが客観的に証明される。

➡ 「GAP」は実施する(する)もの、「GAP認証」は取得する(とる)もの



GAP実施の意義

○ 農業生産活動の持続性を確保するため、

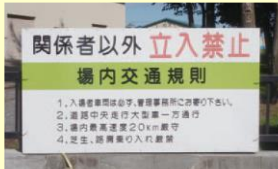
①**食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組。**

○ GAPの実施することは、生産管理の向上、効率性の向上、労働安全の向上、農業者自身や従業員の経営意識の向上につながる等の効果があるほか、農業人材の育成・確保、我が国農業の競争力強化に有効。

JGAPの実施（例）

→ 農場内を点検し、課題や問題点を見つけ、改善。

< 食品安全・家畜衛生 >



農場・畜舎への
出入りを制限



農場内専用の長
靴・服などを着
用

< 人権保護 >

- ・ 適切な労務契約・管理
- ・ 労働者との意見交換
- ・ 研修生等の受入条件の遵守

< 農場経営管理 >

- ・ 部門別責任者の配置
- ・ 教育訓練の実施、内部点検の実施

< 環境保全 >



家畜排泄物を場内に
野積みしない

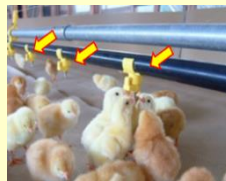


家畜排せつ物を堆
肥化し、農地へ還元

< アニマルウェルフェア >



夏場の暑熱対策
や冬期の寒冷対
策を実施する



OIEの勧告に
準拠した飼養
管理指針に
則した飼育を
する

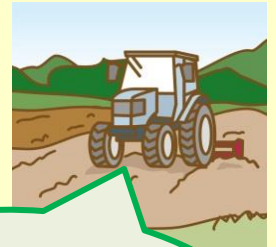
< 労働安全 >



労働災害を未然
に予防する注意
表示

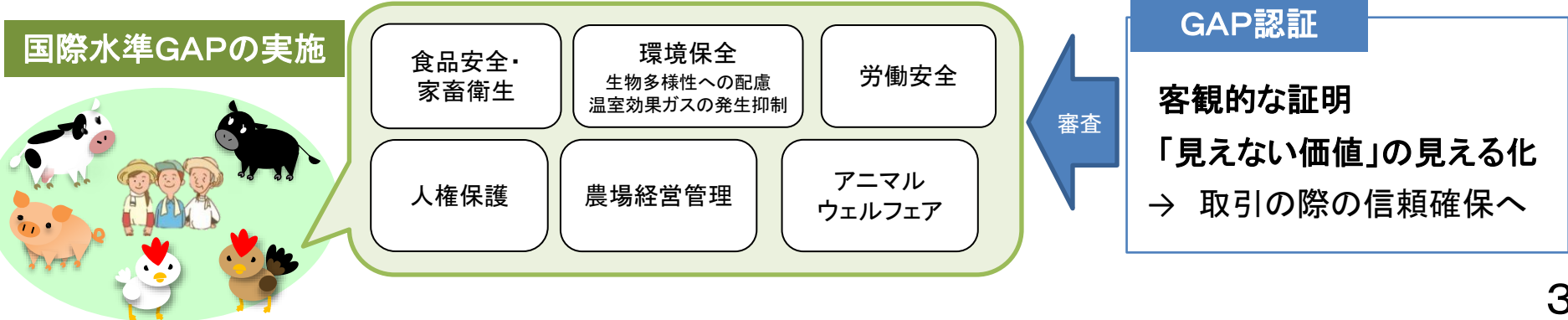
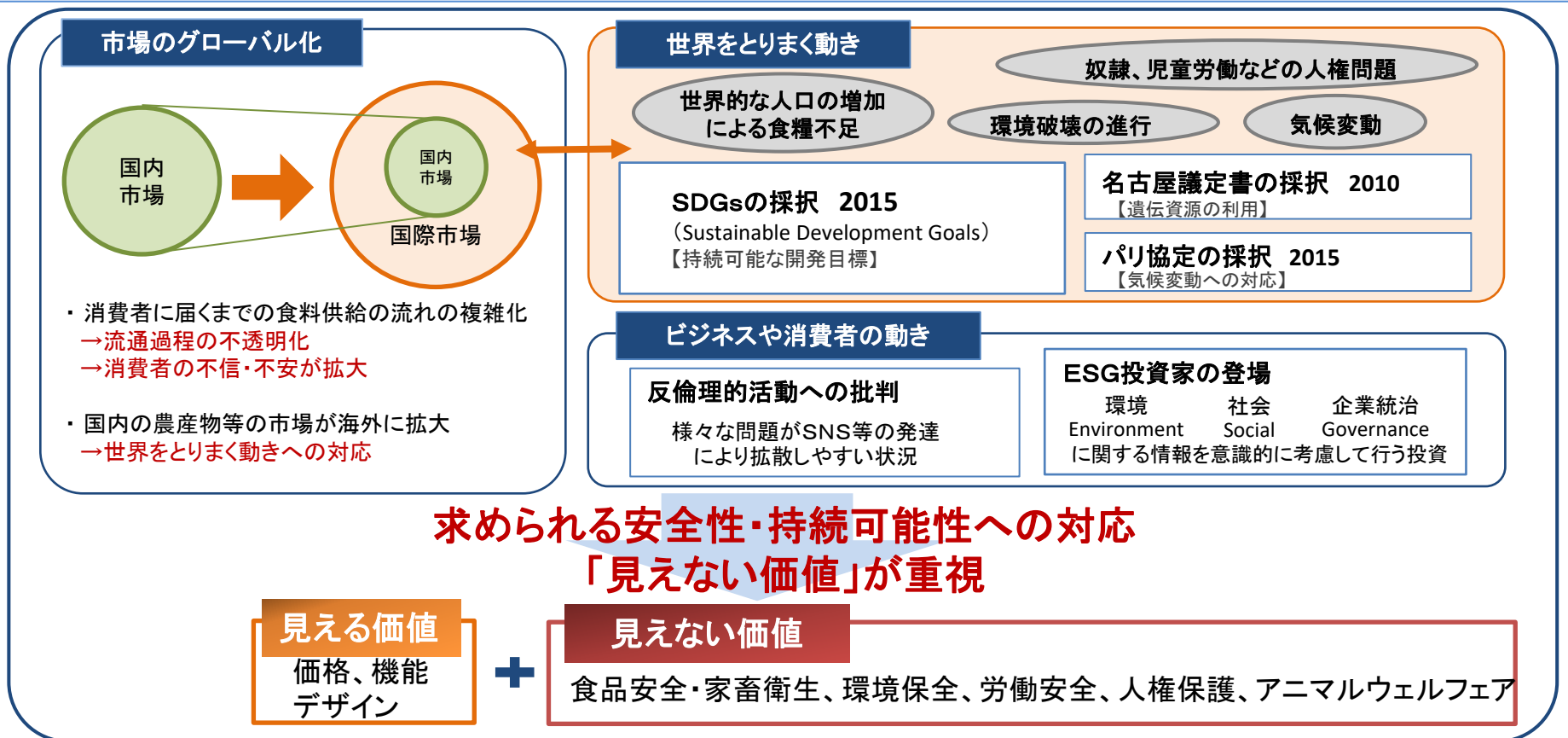


落下防止柵を
設置



家畜や飼料生産による事故
を起こしてケガしないようヘル
メット・安全靴・手袋の着用、作
業手順の遵守等による安全性
の向上

持続可能性確保に向けたGAPの活用



GAPの取組を通じたSDGsへの貢献

取り組み	内容	結びつく SDGs 目標とターゲット
 <p>農場管理</p>	生産工程管理による手順を見える化し、適切な農場管理を行います。	 2.4 持続可能な食料生産システムを確保し、強靱な農業を 実践する。  8.4 世界の消費と生産における資源効率を改善させ 経済成長と環境悪化の分断を図る。
	役割分担を明確にし、働きがいのある職場環境を作ります。 技術的なスキル向上のために、作業者に教育の機会を設けます。	 4.4 技術的・職業的スキル、雇用、働きがいのある 人間らしい仕事を増加させる。
	持続可能な農業、環境への負荷、社会のニーズを考慮した 農畜産物を提供します。	 12.8 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに 関する情報と意識を持つようにする。  17.17 効果的な公的、官民、市民社会のパートナーシップを 奨励・推進する。
	災害に備えた農業生産に取り組みます。	 13.1 気候災害や自然災害に対する強靱性及び適応力を 強化する。
 <p>食品安全</p>	工程ごとにリスク評価と対策をして、安全な農畜産物の生産を 提供します。	 2.1 安全かつ栄養のある食料を十分に得られるようにする。  3.9 有害化学物質、大気、水質及び土壌の汚染による 死亡及び疾病の件数を大幅に減少させる。
	水、土、肥料、飼料、農薬、動物用医薬品など使用する資源の 安全を確認し、適切な管理を行っています。	 12.4 人の健康や環境への悪影響を最小化するため、 化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を削減する。
 <p>環境保全</p>	農業生産から出る廃棄物の削減、有効利用に取り組めます。	 6.3 汚染の減少、有害な化学物質の放出の最小化、未処理の 排水の割合半減により、水質を改善する。  12.5 廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、 廃棄物の発生を大幅に削減する。
	廃棄物の適切な保管・処理を行い、環境への影響を最小限に抑え ます。温室効果ガスの発生抑制や省エネルギーに取り組めます。	 7.3 エネルギー効率の改善率を倍増させる。  13.3 気象変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する 教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。
	農業生産が及ぼす生態系への影響を考慮し、生物多様性に配慮 した活動に取り組めます。	 9.4 クリーン技術及び環境に配慮した技術・産業プロセスの導入拡大や 産業改善により、持続可能性を向上させる。
	農業生産で利用する外来生物が生態系を乱さないよう適切に 管理します。	 14.1 富栄養化など、あらゆる種類の海洋汚染を防止する。  15.1 生態系の保全、回復及び持続可能な利用を確保する。  15.8 外来種の侵入を防止する。
 <p>人権の尊重</p>	人種、国籍、性別などによる雇用や昇給、賃金差別をなくします。	 5.1 あらゆる形態の差別を撤廃する。  8.5 完全かつ生産的な雇用、働きがいのある人間らしい仕事、 同一労働同一賃金を達成する。
	労働者の意思に反した労働を強制しません。	 8.7 強制労働を根絶し、現代の奴隷制、人身売買を終わらせる 措置の実施、児童労働の禁止と撲滅を確保する。
	労働者の働く権利を尊重し、働きがいのある職場環境を作ります。	 8.8 すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を 促進する。
 <p>労働安全</p>	作業者が安全に働ける労働環境を作ります。	 3.6 世界の交通事故による死傷者を半減させる。
	作業者が安全に作業できるように、過去に起きた事故事例や ヒヤリハットをもとに安全な作業手順を作ります。	 8.8 すべての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を 促進する。
 <p>家畜衛生</p> <p>アニマルウェルフェア</p>	衛生的な飼育環境で家畜を健康的に育て、安全な畜産物を提供 します。	 2.4 持続可能な食料生産システムを確保し、強靱な農業を 実践する。  12.8 持続可能な開発及び自然と調和したライフスタイルに 関する情報と意識を持つようにする。
	家畜に不必要な苦痛を与えないように配慮し、家畜にとって 快適な飼育環境を目指します。	 15.1 生態系の保全、回復及び持続可能な利用を確保する。

出典：一般財団法人 日本GAP協会HPより (<https://jgap.jp/uploads/media/9YUIODAVAA>)

GAPに関する国の施策の位置付け①

食料・農業・農村基本計画～我が国の食と活力ある農業・農村を次の世代につなぐために～（令和2年3月31日閣議決定）（抜粋）

2. 農業の持続的な発展に関する施策

(6) 需要構造等の変化に対応した生産基盤の強化と流通・加工構造の合理化

④ 農業生産工程管理の推進と効果的な農作業安全対策の展開

ア 農業生産工程管理の推進

食品安全や環境保全、労働安全、人権保護、農場経営管理等に資する農業生産工程管理(GAP)について、令和12年までにほぼ全ての産地で国際水準GAPが実施されるよう、現場での効果的な指導方法の確立や産地単位での導入を推進する。

「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」(令和2年3月31日策定) (抜粋)

V 酪農・肉用牛生産の持続的な発展のための対応

3 持続的な経営の実現と畜産への信頼・理解の醸成

(1) GAP等の推進

GAPや農場段階でのHACCPの実施は、生産性の向上、効率性の向上、経営主や従業員の経営意識の向上等につながるものであり、人材の育成にも有効な手法である。

加えて、食品安全・家畜衛生、環境保全、作業安全、アニマルウェルフェア等の見えにくい取組を見える化することで、他者からの信頼確保につながり、持続可能で付加価値の高い畜産物生産に資するものである。このため、GAPやHACCPの実施とJGAP、農場HACCP等の認証取得を一層推進する。

「みどりの食料システム戦略」～食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現～
(令和3年5月12日みどりの食料システム戦略本部決定) (抜粋)

4 具体的な取組

(2) イノベーション等による持続的生産体制の構築

⑤ 労働安全性・労働生産性の向上と生産者のすそ野の拡大

(労働安全性の向上等)

・農作業事故等のリスクを低減し、持続的な農業生産にも資するGAPの導入の推進

GAPに関する国の施策の位置付け②

「SDGsアクションプラン2023」～SDGs達成に向け、未来を切り拓く～(令和5年3月17日SDGs推進本部決定)(抜粋)

「SDGsアクションプラン2023」の重点事項 優先課題3:成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション

・GAP拡大推進加速化事業

持続可能な農業構造の実現の観点から、GAP指導員による指導活動、農業教育機関や環境負荷低減に取り組む団体の認証取得、GAP農産物の需要を拡大していくためのセミナー開催や商談会への出展、実需者とのマッチングの促進など、国際水準のGAPの取組の拡大に向けた取組を支援する。

畜産GAPの普及・推進体制の強化に向け、指導員等の育成、GAP認証取得等の取組、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の改善の検討への支援や民間団体による科学的知見の収集等の取組を支援する。

農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律等の一部を改正する法律案に対する附帯決議(令和4年5月18日 衆議院農林水産委員会)

一～七 (略)

八 日本産農林水産物・食品のブランド力を維持・向上し、競争力を強化するため、GAP認証等、世界の食市場において通用する認証の取得を更に支援するとともに、JAS等の我が国発の規格の国際標準化に向けた取組を推進すること。また、地理的表示の相互保護を行う国・地域の拡大、種苗法に基づく登録品種の海外持出制限等の制度の厳格な運用及び海外での品種登録への支援など、農林水産物・食品に関する知的財産の戦略的な創出・保護・活用を図ること。

九～十 (略)

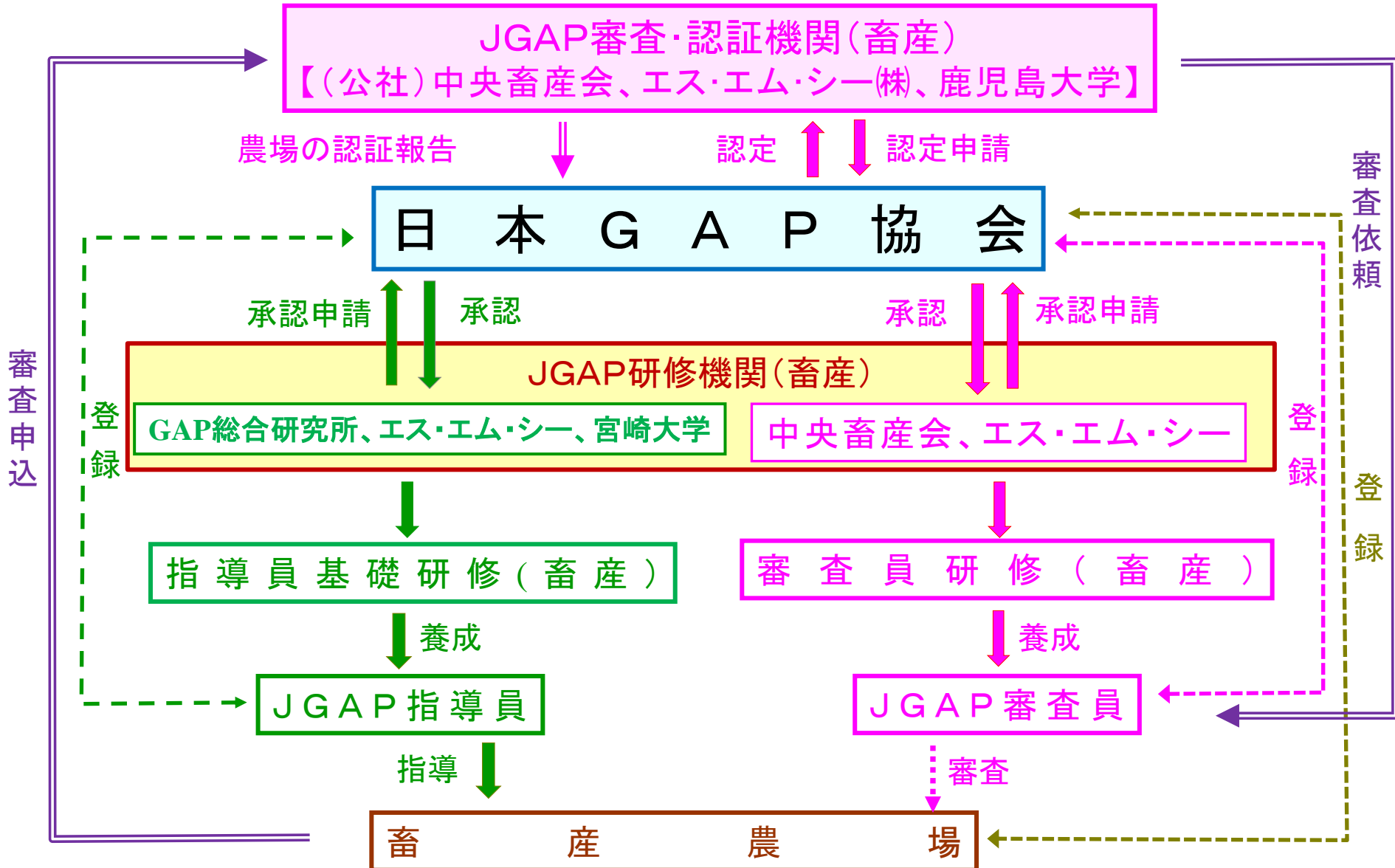
農林水産物及び食品の輸出の促進に関する法律等の一部を改正する法律案に対する附帯決議(令和4年4月7日 参議院農林水産委員会)

一～七 (略)

八 日本産農林水産物・食品のブランド力を維持・向上し、競争力を強化するため、GAP認証等、世界の食市場において通用する認証の取得を更に支援するとともに、JAS等の我が国発の規格の国際標準化に向けた取組を推進すること。また、地理的表示の相互保護を行う国・地域の拡大に向けた取組を推進すること。

九～十 (略)

JGAP畜産の審査・認証体制及び指導体制



畜産におけるGAPの取組について

畜産における農業生産工程管理(Good Agricultural Practices)とは

農業生産活動の持続性を確保するため、

①食品安全・家畜衛生・環境保全・労働安全・アニマルウェルフェアに関する法令等を遵守するための点検項目を定め、②これらの実施、記録、点検、評価を繰り返しつつ生産工程の管理や改善を行う取組のこと。

畜産におけるGAPの推進状況(2023年7月21日時点)

単位:経営体数

	合計	畜種別					
		乳用牛	肉用牛	豚	採卵鶏	肉用鶏	備考
JGAP畜産認証取得 経営体数	延べ 298	51	85	54	51	32	実数:273経営体

注:1つの経営体で複数の畜種において認証取得している経営体があることから各畜種の合計と延べ数とは一致しない。

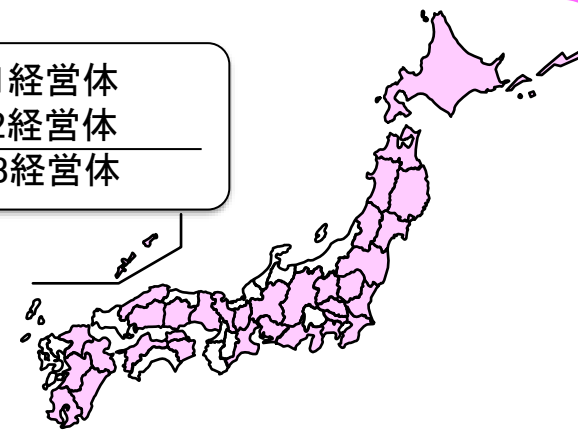
- ・2017年3月31日にJGAP家畜・畜産物の基準書を公表、同年8月21日から農場の認証を開始。
- ・2017年8月31日～2021年10月5日までGAP認証取得の準備段階であるGAP取得チャレンジシステムの運用。
- ・2021年3月8日から生産者自らがGAP認証取得に向けた準備状況をチェックできるGAP取組自己点検システムの運用を開始。

公益社団法人中央畜産会HP <https://www1.jlia-gap.jp/gap/portal.html>

JGAP畜産認証取得経営体

令和5年7月21日現在

乳用牛	: 51経営体	採卵鶏	: 51経営体
肉用牛	: 85経営体	肉用鶏	: 32経営体
豚	: 54経営体	計	: 273経営体



<乳用牛>

◎団体認証取得経営体: 2団体

北海道	株式会社Kalm角山(肉用牛を含む)
	有限会社藤井牧場
	アットファーム株式会社(肉用牛を含む)
	株式会社学林ファーム(肉用牛を含む)
	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構
	北海道農業研究センター(肉用牛を含む)
	株式会社KI(肉用牛を含む)
	北海道中標津農業高等学校
	株式会社ナガホロ(肉用牛を含む)
	有限会社セイランドファーム ◎
	有限会社石川ファーム ◎
	株式会社柏葉ファーム ◎
	株式会社E・H・F ◎
	有限会社田口畜産
	有限会社希望農場
	株式会社リジッドファームズ(肉用牛を含む)
	村上牧場
	千葉牧場(肉用牛を含む)
	中島牧場
	株式会社鈴久名牧場
	及川牧場
	株式会社SEA-LAKE
	有限会社ジェイファームシマザキ □
	目黒牧場 □
	今井牧場 □
	有限会社阿部牧場 □
	有限会社ヤグチツチ □
	大山牧場 □
	武藤牧場 □
	新井牧場 □
	株式会社Kokoro □
	有限会社鹿毛牧場 □
	柏木牧場 □
ノーサンファーム株式会社	
株式会社中條牧場ノースウッドファーム	
株式会社RARA Farm 中標津	
有限会社バインランドデーリィ	
株式会社びえい牧場	
穴吹牧場	
株式会社INFINI	

岩手県	独立行政法人家畜改良センター岩手牧場
	しあわせ牧場
	岩手県立農業大学校(肉用牛を含む)
山形県	はまだ牧場
福島県	ファームつばさ(肉用牛を含む)
	福島県立岩瀬農業高等学校(肉用牛・採卵鶏を含む)
	株式会社フェリスラテ(肉用牛を含む)
栃木県	国立大学法人宇都宮大学農学部附属農場(肉用牛を含む)
	有限会社瑞穂農場那須支店(肉用牛を含む)
神奈川県	株式会社石田牧場
岐阜県	岐阜県立岐阜農林高等学校牛舎(肉用牛を含む)
宮崎県	株式会社松浦牧場

◎団体名: 津別町有機酪農研究会

□団体名: ちえのわ事業協同組合

* 経営体によっては複数の畜種で認証取得しているが、代表的な畜種でカウント

<肉用牛>

○団体認証取得経営体:1団体

北海道	株式会社大野ファームグループ
	株式会社トップファーム
	サロマ牛肥育センター株式会社本場栃木分場
	バシフィックファーム株式会社本場
	株式会社ホクチクファーム標茶分場
	株式会社敷島ファーム白老牧場
	株式会社安平早来牧場
	有限会社長沼ファーム本場
	株式会社エフシーエス
	株式会社まつもと牧場
	株式会社カネダイ大橋牧場(乳用牛を含む)
	有限会社長沼ファーム安平事業所
	株式会社みのり牧場
	北海道倶知安農業高等学校
株式会社十勝ふじや牧場	
佐藤牧場	
青森県	独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場
岩手県	JA全農北日本くみあい飼料株式会社藤沢牧場
	株式会社遠野牧場
山形県	有限会社スカイファームおざき芦沢農場
	株式会社蔵王ファーム山形蔵王牧場
	姫城中川ファーム
福島県	有限会社水上畜産
	野内牧場
茨城県	福島県立磐城農業高等学校(採卵鶏を含む)
	有限会社瑞穂農場本社肥育成部
	有限会社鬼怒グリーンファーム国生本場
	有限会社鬼怒グリーンファーム坂手農場
栃木県	有限会社鬼怒グリーンファーム酒寄牧場
	株式会社敷島ファーム那須第1牧場
	株式会社敷島ファーム那須第2牧場
	株式会社敷島ファーム那須第3牧場
	株式会社敷島ファーム那須第4牧場
	株式会社敷島ファーム那須第5牧場
群馬県	株式会社永田牧場
	有限会社鳥山牧場
	有限会社ビクトリー
岐阜県	株式会社社会育成会議
	株式会社飛騨萩原畜産
	株式会社安立ファーム江東牧場
	岐阜県立加茂農林高等学校牛舎
	岐阜県立大垣養老高等学校
三重県	株式会社社長木屋松阪牧場
	株式会社前川農場

三重県	有限会社伊藤牧場
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第一牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム七保第二牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第三牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第四牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム第五牧場 ○
	瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム松阪第六牧場 ○
滋賀県	有限会社竹内牧場
	三重萩牧場
兵庫県	有限会社澤井牧場第2牧場
島根県	大吉畜産株式会社第3農場
	株式会社上田畜産小代第2農場
岡山県	有限会社かつべ種畜牧場
	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構西日本農業研究センター大田研究拠点
徳島県	有限会社中央牧場
	株式会社藤原ファーム
香川県	長谷川グループ牧場
	義岡ファーム株式会社赤坂牧場
熊本県	間島真司
	株式会社多田牧場
大分県	独立行政法人家畜改良センター熊本牧場
	株式会社矢岳牧場矢岳第2牧場
	株式会社高原牧場
	株式会社やました牧場
宮崎県	株式会社スギモトファーム山香牧場
	株式会社スギモトファーム久住牧場
	大分県立農業大学校(乳用牛を含む)
	安楽畜産株式会社永野牧場
	株式会社スギモトファーム野尻湖牧場
	宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター住吉フィールド(牧場)(豚を含む)
鹿児島県	宮崎県立農業大学校(乳用牛を含む)
	独立行政法人家畜改良センター宮崎牧場
	有限会社アグテック
	株式会社ナニワランチ マミー牧場
	農業生産法人みらいファーム株式会社志布志直営農場
沖縄県	鹿児島県立農業大学校畜産学部(乳用牛・豚を含む)
	有限会社前田農場
三重県	鹿児島県経済連田代肥育牛センター
	株式会社尾崎牧場
三重県	琉球大学農学部附属亜熱帯フィールド科学教育研究センター
	○団体名:瀬古食品有限会社松阪牛の里オーシャンファーム

* 経営体によっては複数の畜種で認証取得しているが、代表的な畜種でカウント

<豚>

●団体認証取得経営体:1団体

北海道	トントス浜中株式会社
	有限会社高橋畜産
	有限会社道南アグロ
	株式会社十勝野ポーク
	おおよファーム株式会社
	ルスト羊蹄ファーム株式会社
	有限会社浅野農場
	株式会社ドリームポーク
	有限会社山中畜産千歳農場
	株式会社ほべつすわいん
青森県	有限会社ビクトリーポーク登別農場
	有限会社中多寄農場白山農場
	株式会社木村牧場
	有限会社みのる養豚第三農場
	有限会社みのる養豚第四農場
岩手県	有限会社みのる養豚第五農場
	株式会社三沢農場三沢肥育農場
	株式会社アーク藤沢農場
	株式会社アーク花泉農場
	みなみよ〜とん株式会社 ●
宮城県	株式会社フリーデン大東農場 ●
	有限会社ケイアイファウム北上農場
秋田県	株式会社南部ファーム
	株式会社サイボクファーム
	有限会社森吉牧場 ●
山形県	ポークランド
	十和田湖高原ファーム
	ファームランド
福島県	バイオランド
	株式会社平田牧場平田第一農場
茨城県	株式会社平田牧場平田第二農場
	株式会社大商金山牧場米の娘ファーム
群馬県	株式会社木野内ファーム
	グローバルビッグファーム株式会社直営農場本場・はやま
千葉県	株式会社フリーデン都路農場 ●
	有限会社中村畜産
東京都	独立行政法人家畜改良センター茨城牧場
	株式会社大平牧場 ●
岐阜県	株式会社フリーデン梨木農場 ●
	群馬県立勢多農林高等学校上泉農場養豚部
愛知県	有限会社フライトビック千葉黒潮農場
	有限会社ジェリービーンズ多古農場
三重県	古川畜産
	有限会社吉野ジッピーファーム白川農場
愛媛県	有限会社石川養豚場
	愛知県立渥美農業高等学校(肉用牛を含む)
宮崎県	有限会社エムケイ商事 崎山農場(肥育)
	有限会社クボタビッグファーム
鹿児島県	JAえひめアイパックス株式会社せと風ファーム
	有限会社エムケイ商事 崎山農場(肥育)
鹿児島県	南州農場株式会社佐多農場
	南州農場株式会社AIセンター
	南州農場株式会社根占農場
	有限会社仮屋ファーム

●団体名:株式会社フリーデン

<採卵鶏>

北海道	株式会社ホクリヨウ札幌農場
	株式会社ホクリヨウ千歳農場
青森県	有限会社青森ファーム
	有限会社ノースランド
岩手県	有限会社東北ファーム
	株式会社ホクリヨウ盛岡農場
宮城県	株式会社ホクリヨウはまなす農場
	株式会社アーク牧場事業部農牧部(養鶏場)
秋田県	イセファーム東北株式会社色麻農場
	株式会社中条たまご秋田農場
福島県	農事組合法人樽見内耕新農場
	社会福祉法人こころん こころんファーム養鶏場
茨城県	有限会社酒井養鶏場石川農場
	有限会社つくばファーム
栃木県	サンリーフファーム株式会社
	株式会社横浜ファーム下妻農場
群馬県	株式会社トマル茂木のたまご
	株式会社トマルみさと農場
	株式会社トマル西ハルナファーム
	株式会社トマル大室農場
	株式会社トマルタチバナファーム
埼玉県	株式会社トマル赤城養鶏
	株式会社ユキヒラ・エッグ
千葉県	株式会社ナチュラファーム
	有限会社いすみポーター
長野県	株式会社パートナーズ木更津農場
	株式会社横浜ファーム君津農場
静岡県	農事組合法人会田共同養鶏組合本場
	株式会社富士山ポーター
愛知県	株式会社あざぎり宝山ファーム
	株式会社ディリーファーム成鶏農場
京都府	独立行政法人家畜改良センター岡崎牧場
	有限会社グリーンファームソーゴ
兵庫県	有限会社たまごの郷
	有限会社レイ
広島県	株式会社レイ
	株式会社ディリーエッグ
	株式会社東城ポーター東城農場
	株式会社東城ポーター竹森農場
	株式会社東城ポーター庄原農場
福岡県	株式会社東城ポーター南山農場
	有限会社久井ポーター育成部門
熊本県	有限会社グリーンファーム
	JR九州ファーム株式会社飯塚事業所
宮崎県	トップ卵ファーム株式会社合志農場
	トップ卵ファーム株式会社美里農場
鹿児島県	フュージョン株式会社本社第1,2農場
	フュージョン株式会社新富農場
鹿児島県	新富エッグシステム株式会社18農場
	南九州エッグシステム株式会社眩ヶ山農場
鹿児島県	南九州エッグシステム株式会社末吉農場
	鹿児島県立鹿屋農業高等学校

<肉用鶏>

☆団体認証取得経営体:2団体

青森県	プライフーズ株式会社八戸第三農場 ☆
	プライフーズ株式会社八戸第四農場 ☆
	プライフーズ株式会社中館泰成第一農場 ☆
	プライフーズ株式会社中館泰成第二農場 ☆
	プライフーズ株式会社田中真吾農場 ☆
	プライフーズ株式会社鶴飼繁男農場 ☆
	プライフーズ株式会社東秀光農場 ☆
	プライフーズ株式会社福田信雄農場 ☆
	プライフーズ株式会社関誠農場 ☆
	プライフーズ株式会社田子第一農場 ☆
山形県	プライフーズ株式会社田子第二農場 ☆
	株式会社アイオイ 観音寺ファーム、三ノ平ファーム
福島県	株式会社アイオイ 鶴ヶ平ファーム
	佐藤卓也 ★
	佐藤伝一 ★
	武藤芳守 ★
	佐久間清 ★
	佐藤光時 ★
	斎藤正博 ★
	菅野幹男 ★
	菅野イツミ ★
	佐藤富夫 ★
群馬県	斎藤克弘 ★
	菅野清助 ★
静岡県	有限会社川俣シャモファーム ★
	佐藤正範 ★
鹿児島県	アクザワファーム株式会社
	株式会社青木養鶏場
鹿児島県	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社福山モデル農場
	☆団体名: プライフーズ株式会社

* 経営体によっては複数の畜種で認証取得しているが、代表的な畜種でカウント

★団体名: 川俣シャモ振興会

農業高校等におけるGAP認証等取得状況（令和5年3月31日現在）

・11校の農業高校と7校の農業大学校・大学が第三者機関によるGAP認証を取得。
（JGAP畜産：18校）

	学校名		畜種
1	北海道	中標津農業高等学校	乳用牛
2	北海道	北海道俱知安農業高等学校	肉用牛
3	岩手県	農業大学校	乳用牛、肉用牛
4	福島県	岩瀬農業高等学校	乳用牛、肉用牛、採卵鶏
5	福島県	磐城農業高等学校	肉用牛、採卵鶏
6	栃木県	宇都宮大学	乳用牛、肉用牛
7	群馬県	勢多農林高等学校	豚
8	岐阜県	岐阜農林高等学校	乳用牛、肉用牛
9	岐阜県	加茂農林高等学校	肉用牛
10	岐阜県	大垣養老高等学校	肉用牛
11	愛知県	渥美農業高等学校	豚、肉用牛
12	三重県	明野高等学校	豚
13	大分県	農業大学校	肉用牛、乳用牛
14	宮崎県	宮崎大学	肉用牛、豚
15	宮崎県	農業大学校	肉用牛、乳用牛
16	鹿児島県	農業大学校	肉用牛、乳用牛、豚
17	鹿児島県	鹿屋農業高等学校	採卵鶏
18	沖縄県	琉球大学	肉用牛

畜産GAP拡大推進加速化

【令和5年度予算概算決定額 58（97）百万円】

<対策のポイント>

持続的な農業生産に資するGAPの導入の推進は、みどりの食料システム戦略によりSDGsに配慮した畜産物の生産を推進していく上で重要であることから、**畜産GAPの普及・推進体制を強化しつつ、畜産GAPの取組の一つであるアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の更なる普及拡大等の取組を支援します。**

<政策目標>

畜産GAP認証取得経営体数の増加及び国産畜産物に対する評価の向上

<事業の内容>

<事業イメージ>

1. 畜産GAP拡大推進加速化交付金

地域の実情に応じて畜産GAPの取組や認証取得が加速的に進展するよう、**指導員の育成から指導員による経営体の指導及び重点地域や農業教育機関の畜産GAP認証取得など都道府県の取組に対し、交付金により機動的に支援します。**

2. 畜産GAP認証審査支援

畜産GAPの認証取得拡大を図るため、**家畜防疫強化の観点等から審査体制を強化するため審査員の増員等に必要な取組を支援します。**

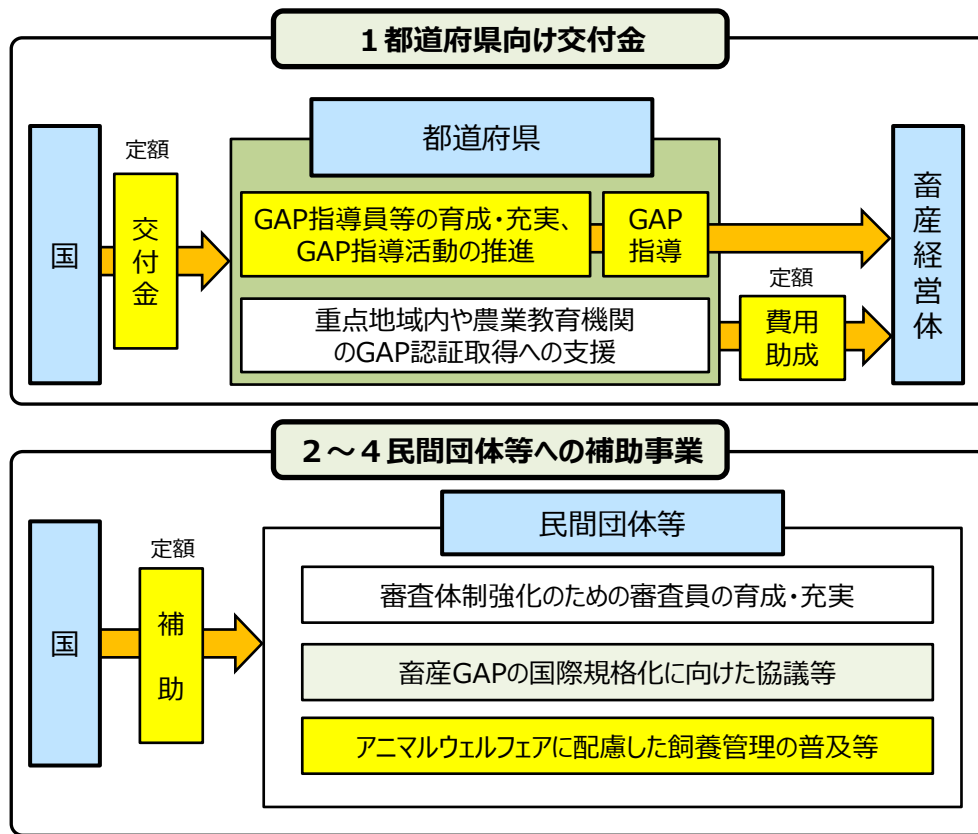
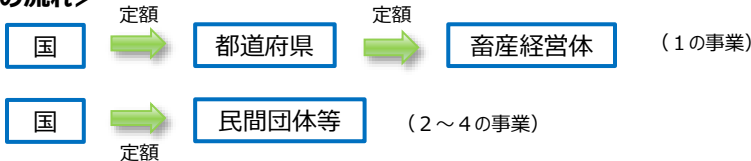
3. 畜産GAP認証の拡大支援

畜産GAPの認証取得拡大を図るため、**国際規格化に向けた協議、実需者・消費者のGAP認知度向上等に必要な取組を支援します。**

4. 持続可能性配慮型飼養管理の推進

アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の普及拡大を図るため、**生産者団体によるアニマルウェルフェアに配慮した飼養管理の改善の検討への支援や民間団体による科学的知見の収集等の取組を支援します。**

<事業の流れ>



【お問い合わせ先】 畜産局畜産振興課 (03-6744-2276)

畜産GAP等認証の取得のための支援

<個別に認証を取得する場合>

認証の種別	助成額の上限
1 JGAP畜産(農場HACCPとの差分審査)	60千円
2 JGAP畜産(1以外)	150千円
3 GLOBAL G.A.P.	450千円

注:上限額は諸費用及び旅費を含むこととし、税抜き額とする。

<団体で認証を取得する場合>

認証の種別	助成額の上限
1 JGAP畜産(農場HACCPとの差分審査)	60千円 × (団体の構成員数の平方根 + 2)
2 JGAP畜産(1以外)	150千円 × (団体の構成員数の平方根 + 2)
3 GLOBAL G.A.P.	450千円 × (団体の構成員数の平方根 + 2)

注1:上限額は諸費用及び旅費を含むこととし、税抜き額とする。

注2:団体の構成員数の平方根については、小数点以下切り上げとする。

<留意事項>

- ・ GAP認証を、更新や継続でなく新規(GAP認証を既に取得している農業者等が、他のGAP認証を追加で取得する場合を含む。)で取得すること。
- ・ 事業実施年度を含めた3年間、継続して認証を取得することを確約すること。

<畜産GAP拡大推進加速化交付金(農林水産省事業)>

・事業実施主体:都道府県

・事業内容:畜産GAPの取組について都道府県等指導員による生産者指導、研修等が受けられます。

畜産GAP認証取得に係る費用の一部助成が受けられます。

・補助率:定額

※詳しくは、都道府県畜産主務課へお問い合わせください。

(参考)農場HACCPとJGAP畜産の認証について

概要

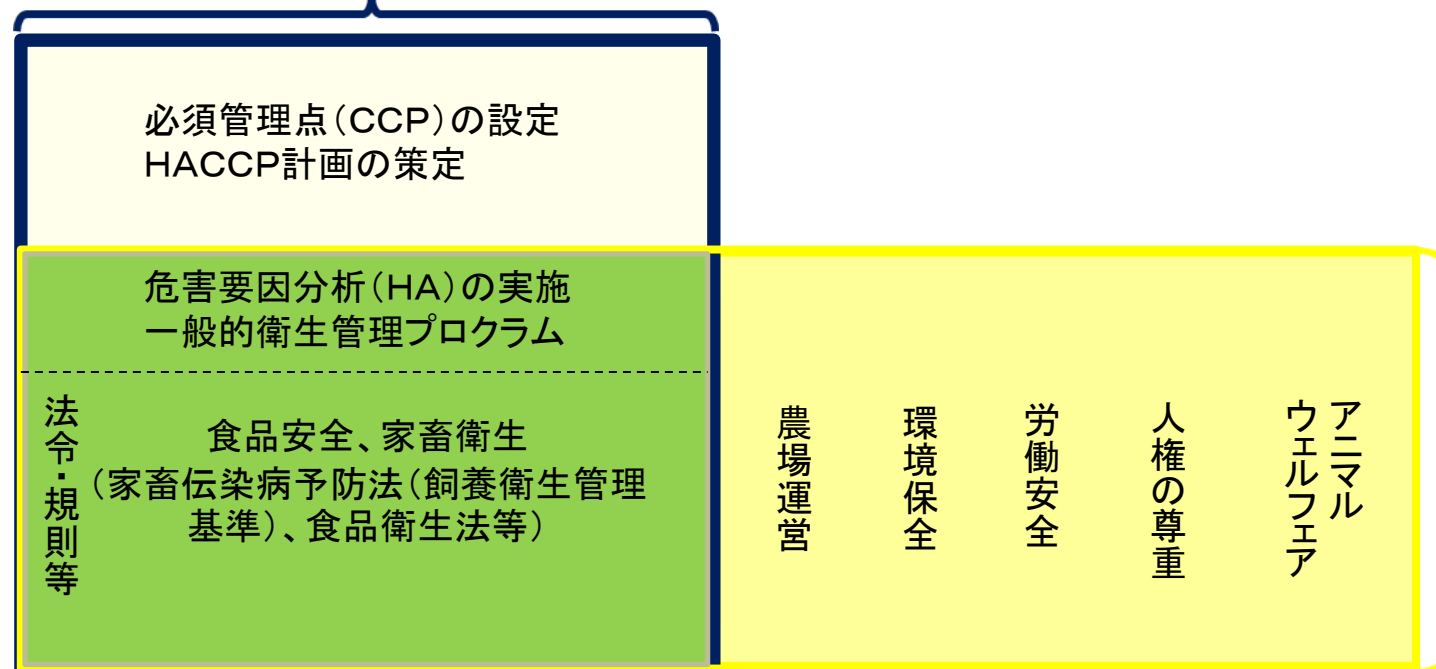
農場HACCP：畜産物の安全性向上のため、生産農場にHACCPの考え方を取り入れ、家畜の所有者自らがハザードや管理点を設定し、記録し、生産農場段階の危害要因をコントロールする飼養衛生管理の方法。

JGAP畜産：日本GAP協会により開発されたGAPのスキームの一つで、農場運営、食品安全、家畜衛生、環境保全、労働安全、人権の尊重及びアニマルウェルフェアの視点から適切な生産工程管理のあり方についてまとめられたもの。

<農場HACCP認証基準とJGAP畜産の基準の概念図>

農場HACCPの認証内容

以下の点を農場が設定し、運用、検証及び改善が出来ていることを認証



JGAPの認証内容
農場が左記の点について基準を満たしていることを認証